



NAKA歌声発表会 ～ 素晴らしい表現活動が見られました ～

感染症拡大による休校や行事の中止等により、エネルギーを発散させる機会が減って心が満たされず、心配な様子になっている子どもが多くいることが大きな問題になっています。前にも書きましたが、あるカウンセラーの先生は、「ここ30年間で、最も危機的な状況かもしれない。」とおっしゃっています。

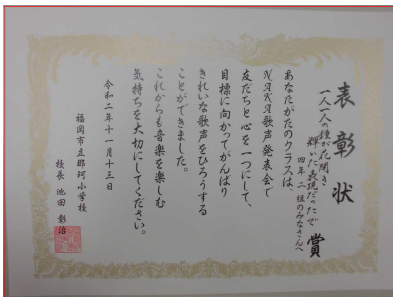
本校でも、1年間の中で、運動会、学習発表会などの行事を計画的に行ってきました。節目節目に子どもたちの満足感を高め、集団への所属感や自己の存在感を実感させることは重要で、それが生活や学習に大きな効果をもたらし、健全な育成につながると考えるからです。

今年は、学校が再開された5月下旬以降、職員全体で『今後の教育活動のあり方』を考え協議する場を何度か設けました。「密集を避けながら実施できる小規模の運動会はできないか。」「歌や踊りなどのパフォーマンスを見せ合う会を工夫して実施したい。」など、感染症拡大のためモヤモヤしているであろう那珂っ子の頭と心と体を解き放つための代替の取組について知恵を出し合いました。



【学級みんなで心と声を合わせて】

そのひとつが、4日(水)から12日(木)まで行った『NAKA歌声発表会』です。これまでの学習発表会では、学年単位で合唱・合奏や劇などを披露してきましたが、今回は、学級ごとに、歌唱を中心に10分間の表現活動を行うというものです。



【どの学級にもそれぞれのキラリが】

どの学級も、単に歌うだけでなく、国語で学習した題材を「続きは次の学級で。」とリレー形式の音楽物語にしたり、ダンスや手話を取り入れたり、様々な趣向を凝らしていました。高学年では、ハーモニーが素晴らしい二部合唱、体全体を打楽器にしてリズムをとるボディパーカッションなど、見事な表現がたくさん見られ、「さすが!」とうなっていました。

それら1つ1つの発表の後、“審査員”である職員が講評としてコメントとメッセージを送りました。私は子どもたちが学校再開後わずかの期間ですぐ成長したことを嬉しく思うと伝えました。また、この発表会を通して得たものを学習や生活に生かし、残りの約4か月間で新しい学年になる心がまえをつくることの大切さを話しました。

特に5年生へは、「最上級生の姿を見れば、その学校全体の様子が分かります。もう間もなく那珂小全体をまとめリードしていく重要な立場になるという覚悟をもって生活してください。」と話しています。

13日(金)には会議室で表彰式を行い、その様子をオンラインで各教室へ配信しました。各学級の代表児童へ「優しい声で心をこめて歌ったで賞」「一人一人の種が花開き、輝いた表現だったで賞」など、それぞれのよさを賞状にして渡しましたが、これも昨年度までにない新しい取組でした。

今年もしますよ!

自然と なかよし vol. 32
(那珂小スケッチ)

『那珂小 正門の桜の葉が、全部落ちてしまうのは、いつでしょう?』
予想あてクイズ!

11月に入って気温が急激に低くなったこともあり、桜の葉がずいぶん赤くなり、また毎日たくさん落ちています。昨年度も行った「自然となかよしクイズ」。正門にある桜の最後の1枚の葉が落ちたのが12月24日でした。さあ、今年はどうでしょう?この寒さから、去年より早くなるかも・・・う～ん・・・? 那珂っ子の皆さん、校長室前のボードに予想を書きに来てください。



【行き帰り、時々見上げてみよう】

